

あわべに
淡紅 だより
2023年3月特別号 No.77

みとめあい わかちあい まち
“あなたと、**寛容** **共生の宝塚**に”

宝塚市議会議員

おおしま ときこ
大島淡紅子

■ 議員控室

- Tel (0797)77-1271
- Fax (0797)74-1810
- E-mail goiken1955@gmail.com

■ 事務所 (月～金 10:00～15:00)

- 〒665-0816 宝塚市平井 1-6-7-105 ピアハイツ
- Tel&Fax (0797)89-4090
- HP <http://ayumukai.jp/>
- E-mail o-ayumukai@poem.ocn.ne.jp

今年の干支「癸卯」は、「寒気が緩み、萌芽を促す年」だそうです。
今年こそ世の中が好転する年となりますようにー
また、私にとっては改選という総括の年です。
今回の選挙は、20年間の議員としての在り方を、市民のみなさんに問われる選挙と思っています。
「寛容と共生の宝塚」を願い、目標に向かって力を尽くせますよう、
変わらぬご支援、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



🎙️ [12月議会報告]

- ・市立看護学校の ①入学金 15万円⇒20万円(県内平均 230,588円)
- ②授業料 月額3万円⇒4万円(年36万円、県平均 540,258円)に賛成し可決。だが、市内就職率が20%台なので、今後、市内就労者には奨学金返済不要など特典を付けては？
- ・市職員の定年を63～65歳まで延長可、給与は3割減、週31時間短時間勤務も選択可
- ・議員定数の在り方に関する調査特別委員会
…学識経験者や市民参考人を招致し、12回にわたり議論したが、結果「**現行の議員定数を維持**」



一般質問

1. ささえ合いで宝塚のまちの発展を



(1) 介護ファミリーサポートセンターの存在意義は

◆行革の目玉として、**エフエム宝塚と介護ファミリーサポートセンター(ファミサポ)の運営補助金を出さない**ことに。近隣市町では、育児ファミサポはあっても介護ファミサポはありません。

国の方針は、介護保険料の支出を抑えるため、介護度の高い人をサービス対象として、低い人を外し、家族かボランティアに支援を任せようとしています。

こんな時に、**市は手を引き、20年以上かけて構築した制度を失くそう**としているのです。

◆他の市内団体は、小規模であったり、支援する方が高齢化しているので、現在の利用者を任せることは困難です。

◆質問のあと、「**廃止**」⇒「**転換**」となり、23年度は他団体の実態調査、会員の意向など検証してから結論を出すことになりました。

◆これからの**市政のキーワードは「協働」**です。

市民力のエンパワメントも期待できる事業を、失くしてはなりません！

(2) ユニバーサルツーリズムで特色ある観光をめざす

9年前から、国際観光都市として他と差別化を図るために「**バリアフリー観光**を」と訴えて来ましたが、**県が推進**し始めました。高齢者・障がい者・LGBTs誰もが楽しめる旅を提供しましょう！



(3) 「消費者市民社会」実現のために

消費者が様々狙われる今日この頃、・宝塚生活大学(消費者講座)・ガレッジセール・消費者の店・食用廃油回収と手作り石けん・リサイクル活動・消費生活に関する調査研究及び啓発事業、展示他の事業展開をして来た消費者協会宝塚も、高齢化が進んでおられます。

市は**サポートを充実**し、協会の今後に向けて話し合いをする時期ではないでしょうか。

2. 国からの通知や依頼に対し、市としての姿勢をどうするか

国から「拉致問題の関連図書の実」を求める事務連絡と、「来年度から特別支援学級在籍児は週の授業時数の半分以上は支援級で学ぶこと」旨の通知が来ました。

いずれも、担当は**まったく疑問を抱かず**粛々と進めています。

国から文書が突然下りて来たり閣議決定の連発という、スピーディだが丁寧さに欠ける今だからこそ、**民主主義が脅かされない**よう、立ち止まって考える必要性を問題提起しました。

今期、実現できたこと

本会議や委員会での大島の質問や要望、担当課との協議で、方向性が変わり実現したのですが、私一人の力ではありません。何よりも市民のみなさんと担当職員たちの熱い思いの「賜物」です。

*医療的ケアを要する子どもが、安心して保育所に通える体制づくり

医療的ケア児支援法の施行により、学校や保育所での医療的ケア児の受入は義務となった。当市では過去から受け入れているが、保育所での看護師常時配置は初。

*子ども医療助成制度の拡充

詳細は未定だが、23年度施政方針に間際で盛り込まれた。



*学校給食喫食時の黙食緩和

市民団体とともに粘り強い要望をした



*中学校の理不尽な校則の見直し

子どもによる見直しを願う市民活動も行った

*学校での性暴力対策マニュアルの全校配置

山崎市長も現役弁護士として制作に携わった優れたマニュアル

*市立病院看護部長の副院長化

経営部の活性化と看護師のモチベーションアップ

*介護ファミリーサポートセンター事業の「廃止」撤回

次年度、調査研究することに

*投票所事務従事者へのセクシャルマイリティ研修

今年からは名前の読み上げもしない



*事業承継等に関する経営支援

民間事業者によるコンサルティングで発想の転換を

*ユニバーサルツーリズム実施に向けた取組

兵庫県と市国際観光協会が、市担当課と事業者向け研修会を複数開催

*有害鳥獣をジビエ利用

命を無駄にしないために、捕獲後廃棄を次年度から食肉加工



*市営霊園で樹木葬

里山型ではないが次年度から実施